

# あまねく

*amaneku*

2018 vol.8



同志社大学 障がい学生支援室

## はじめに

### 「あまねく」第8号発刊によせて

障がい学生支援室長  
阪田 真己子



「まさか、自分が生きているうちにこのような法律が制定されることになるとは、夢にも思っていなかった」

2016年4月、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（障害者差別解消法）が施行されました。冒頭の言葉は、ある聴覚障がい当事者の方が、本法律施行に際しておっしゃった一言です。本法律は、それぐらい当事者やその関係者にとって、極めて強いインパクトを与えるものだったのです。

しかしながら、その重みを、すべての人が必ずしも理解しているわけではありません。

障害者差別解消法により、高等教育機関における障がい学生支援も大きな転換期を迎えることとなりました。本学では、従前より、障がいのある学生一人ひとりのニーズに応じた「合理的配慮」を提供するべく先進的な取り組みをしてまいりましたが、同法制定により、障がい学生支援制度の見直しを行い、障がい学生と大学との「合意」に基づく合理的配慮を提供できるよう運用をしています。

同法が「障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現」に向けて制定されたように、本学でも、同志社で学ぶことを選んでくれたすべての学生の「学ぶ権利」を保障するとともに、学生たちが相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する場を提供することを目指しています。

障がい学生支援広報誌「あまねく」は、このような社会情勢の中での同志社大学における障がい学生支援の理念と実際の取り組みをご紹介しますとともに、本学の障がい学生支援を支えてくれている学生スタッフならびに利用学生の様子を多くの人に知っていただくためのものです。本誌が、本学の教職員、学生だけでなく、全国の障がいのある学生・生徒の皆さんやその関係者の皆さん、ひいては「障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現」を願うすべての方々への情報提供としてお役に立てば幸いです。

2018年9月



## 目 次

「あまねく」第8号発刊によせて .....	02
〈大学内行事開催状況〉.....	04
04…入学式手話通訳／入学式パソコン通訳／卒業式手話通訳／卒業式・学位授与式／ 春学期顔合わせ会／秋学期顔合わせ会／ランチタイム手話	
05…障がい学生支援室 制度説明会／2017年度 新入生歓迎会／春学期フォローアップ勉強会／ 秋学期フォローアップ勉強会／オープンキャンパス／春のキャンパス見学会	
06…第13回 Challenged キャンプ	
08…秋学期中間懇談会／秋学期末懇談会・懇親会	
09…ガイドヘルプおよび車椅子介助の講習会	
10…奨学金返還説明会／障がい学生へのキャリア形成プログラム『同志社大学生協インターンシップ』／ 同志社京田辺クリスマス燭火讃美礼拝／同志社クリスマスキャンドルライトサービス	
11…「2017 キャリア体感プログラム」事前講座／第1回就職ガイダンス／電気系進路ガイダンス／ 障がい学生対象就職ガイダンス&相談会	
〈社会貢献事業〉.....	12
12…第26回 障害者シンクロナイズドスイミングフェスティバル／上京区憲法月間 映画のつどい／ 鳥取聾学校 来学	
13…コマ撮り撮影と積み木色塗り／ 複合領域科目「コミュニケーションのバリアフリー」を考えるー共に生きる社会をめざしてー	
14…第1回上京区ふくしをなんでもしっとこ講座／第2回上京区ふくしをなんでもしっとこ講座	
15…京都府立盲学校来学／上京区人権月間バスツアー	
〈連携事業〉.....	16
16…AHEAD JAPAN /さかの映像祭／ 大学コンソーシアム京都パソコン(PC) テイカー養成講座(初級編) in 同志社大学	
〈同志社大学障がい学生支援室について〉.....	17

# 大学内行事開催状況

## ●入学式手話通訳

日時・場所：2017年4月1日(土)  
京田辺校地 デイヴィス記念館  
協力スタッフ：2名(障がい学生支援  
コーディネーター含む)

## ●入学式パソコン通訳

日時・場所：2017年4月1日(土)  
京田辺校地 デイヴィス記念館  
協力スタッフ：4名



## ●卒業式手話通訳

日時・場所：2018年3月20日(火)、3月21日(水・祝)  
今出川校地 同志社女子大学 栄光館  
2018年3月22日(木)  
京田辺校地 デイヴィス記念館  
協力スタッフ：11名(障がい学生支援コーディネーター含む)



## ●卒業式・学位授与式

### 【利用学生の声をご紹介します】

本学の障がい学生支援制度を利用されていた大学院生が2017年度学位授与式にて、博士課程(後期課程)の学位記を授与されましたので、ご紹介します。

北川雄也(2017年度 修了生)

私は、生まれつき上下肢に障がいを有しており、普段は電動車いすに乗って生活しています。2009年に同志社大学政策学部に入學して以来、9年間、同志社大学・大学院に在籍してきました。この9年間の同志社生活を経て、先日、2018年3月に総合政策科学研究科博士課程(後期課程)の学位授与を受けました。同志社大学は、障がい学生支援制度が充実していましたので、研究生活も快適に過ごすことができました。

また、学部・研究科事務室やその他の部署の職員の方々からは、障がいを有することによって生じた支障に関して、懇切丁寧に個別に対応していただきました。本大学で研究できたからこそ、博士号の取得に至るまで研究を進めることができたのだと思います。2018年の4月からは、同志社大学研究開発推進機構特別任用助手(有期研究員)として研究を続けます。研究テーマは、『行政学の観点からみた障害者政策の評価活動について』であり、当事者の視点をふまえて行政学の研究を進めていきます。

障がいのある方の中で、今後、大学院への進学を希望している方は、是非安心して、そして本大学の支援環境を最大限に活かして研究を進めていただければと思います。



## ●春学期顔合わせ会

日時・場所：2017年4月5日(水)  
京田辺校地  
情報メディア館 405 教室  
今出川校地  
良心館 307 教室  
参加者数：40名(京田辺)  
39名(今出川)



## ●秋学期顔合わせ会

日時・場所：2017年9月20日(水)  
今出川校地  
良心館 307 教室  
2017年9月21日(木)  
京田辺校地  
情報メディア館 306 教室  
参加者数：28名(今出川)  
38名(京田辺)



## ●ランチタイム手話

日時・場所：開講期間中 毎月第2・第4火曜日  
京田辺校地 成心館2階 面談室3  
開講期間中 毎月第2・第4木曜日  
今出川校地 寒梅館ミーティング  
ブースA  
参加者数：約15名/回  
講師協力：7名



### ●障がい学生支援室 制度説明会

日時・場所：2017年4月12日（水）、4月19日（水）、4月26日（水）  
 京田辺校地 成心館2階 面談室3  
 今出川校地 寒梅館1B 会議室  
 参加者数：6名（京田辺） 39名（今出川）



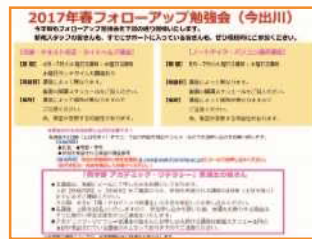
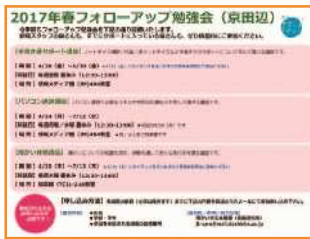
### ●2017年度 新入生歓迎会

日時・場所：2017年4月26日（水）  
 京田辺校地 教職員食堂「リブレ」  
 2017年5月17日（水）  
 今出川校地 志高館地下ラウンジ  
 参加者数：38名（京田辺・教職員含む）、30名（今出川・教職員含む）



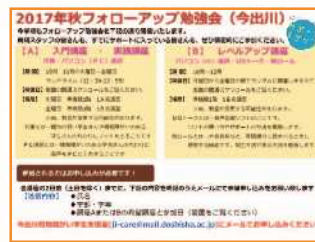
### ●春学期フォローアップ勉強会

日時・場所：2017年4月20日（木）～7月13日（木） 京田辺校地  
 2017年4月26日（水）～7月20日（木） 今出川校地  
 参加者数：235名（京田辺延べ）、49名（今出川延べ）



### ●秋学期フォローアップ勉強会

日時・場所：2017年10月9日（月）～12月22日（金） 京田辺校地  
 2017年10月16日（月）～12月12日（火） 今出川校地  
 参加者数：174名（京田辺延べ）、25名（今出川延べ）







### ●オープンキャンパス

日時・場所：2017年7月30日（日） 京田辺校地  
 2017年8月6日（日） 今出川校地  
 協カスタッフ：18名（パソコン通訳、移動介助等、延べ）

### ●春のキャンパス見学会

日時・場所：2018年3月24日（土） 京田辺校地  
 協カスタッフ：2名（パソコン通訳）

## ●第13回 Challenged キャンプ

日時・場所：2017年9月6日(水)～9月8日(金)

兵庫県 休暇村 南あわじ

参加者数：25名(教職員含む)

第13回 Challenged キャンプが南あわじで開催されました。

障がいのある学生も健常学生も、音がない・光がない・身体がきかないという体験を通じて、答えの見えない問いにぶつかりながら自分自身にまっすぐ向き合う Challenged キャンプ。

今年のキャンプは25名(学生20名・教職員5名)の参加を得て、兵庫県淡路島で行いました。今回は、ここ数年で頻繁に起きている大地震などの災害に焦点を当て、「障がい」や「いのち」について考えるというテーマで開催しました。

1日目は、神戸にある「人と防災未来センター」を訪れ、災害時に直面することや被災された方の気もちに思いを巡らせました。誰もがパニックに陥る緊急時で自分は何を優先するのか、それは自分のいのちなのか？家族のいのちなのか？近くにいる障がい者やお年寄りなのか？また、障がいがあることで、避難時はどのようなことが予想されるだろうか。人とのつながりを障がい体験、震災体験を通して気づかされました。

2日目は、大塚国際美術館へ行き、障がい体験をしながら、それぞれに充てられた「やりたいこと」を通して、障がいのある人と健常の人がどのようにしたら一緒に楽しむことができるのかを考える機会を得ました。

3日目のクロージングでは、2日間過ごして得た気づき、今考えることを発表し合い、それぞれの考えや感情、今日までの自分自身の振り返りを共有し、互いに新たな気づきを得ることができました。



淡路島に向かう前に「人と防災未来センター」へ



障がい学生支援室長の発声と共に結団式



1日の体験を通してグループディスカッション



## 第13回 Challenged キャンプ 2017

宿泊先：休暇村 南淡路  
 行き先：兵庫県南あわじ市福良内  
 日時：2017年9月6日(水)～8日(金) 2泊3日  
 参加費：12,000円(宿泊費・交通費・食費含む)  
 募集人数：30名 ※応募者多数の場合は書類選考

【申し込み】  
 場所：両校地学生支援センター 障がい学生支援室  
 期間：6/28(水)～7/14(金)17:00まで  
 ☆参加決定者には7月18日(火)にメールにてお知らせします

【お問い合わせ先】 学生支援センター 障がい学生支援室  
 京田辺：成心館1階 TEL：0774-65-7411  
 今出川：寒梅館1階 TEL：075-251-3273  
 ※メールでのお問い合わせはjt-care@mail.doshisha.ac.jpへお送りください

Challenged キャンプは  
 障がい学生と一般学生が  
 寝食をともにしながら  
 お互いの交流をはかり  
 本音でぶつかり合える場

音がない  
 光がない  
 身体がきかない  
 という世界を

実際に体験することで  
 いつもとは違った視点から  
 見慣れた風景をみつめる  
 日常生活では気づかないことを  
 気づかせてくれる

3日間

それぞれが  
 「私」と向き合い  
 「あなた」と向き合い  
 「私たち」が向き合う  
 3日目最後のクロージングで  
 少し成長した仲間と自分に  
 出会うために・・・

## 2017 Challengedキャンプ行程

行き先		休暇村南淡路	
期間		2017年 9月6日(水)～9月8日(金)	
×日	月日	スケジュール	
<b>1日目テーマ 「自分のいのち いのちの痛み」</b>			
1 日 目	9月6日 (水)	8:30	8:30参加者集合 (幸禰部西奥の和室)
		10:00	今出川校地 出発 →人と防災未来センターへ移動 (大型バスにて約1時間30分)
		11:30	人と防災未来センター 到着 (昼食後にセンターを見学) ※車椅子・アイマスク・聴覚の体験
		12:00	人と防災未来センター 入場
		15:30	人と防災未来センター 出発 →休暇村南淡路へ移動 (大型バスにて約1時間15分)
		16:45	休暇村南淡路到着 →結団式 (橋山先生のお話) 一日目の体験のシェアなどグループでの話し合い
		18:00	夕食 (「百ろう」・「盲と肢体不自由」の体験あり)
		19:30	食事 (百ろう/盲と肢体不自由の体験)の振り返りも含めて グループでの話し合い 2日目についての確認
20:30	解散、入浴後自由時間		
<b>2日目テーマ 「相手の存在」</b>			
2 日 目	9月7日 (木)	7:00	朝食 (「百ろう」・「盲と肢体不自由」の体験あり)
		9:00	休暇村 出発 →大塚国際美術館へ移動 (大型バスにて約25～30分)
		9:30	大塚国際美術館 到着 ※車椅子・アイマスク・聴覚の体験
		13:30	大塚国際美術館 出発 →休暇村へ (大型バスにて約25～30分)
		14:00	休暇村 到着 →15:30まで休憩、入浴、心の整理・個人発表の準備
		16:00	美術館での体験、初日からの振り返りを含めて グループでの話し合い/個人での発表
		18:00	夕食 (体験無し)
		19:00	個人発表の続き/まとめなど
21:00	解散、入浴後自由時間		
<b>3日目テーマ テーマ:クローージング</b>			
3 日 目	9月8日 (金)	7:00	朝食 (体験無し)
		8:30	クローージング
		12:00	昼食
		13:00	休暇村 出発 →17:00に今出川校地着 (今出川校地経由→京福駅→京田辺校地の予定)

### ～キャンプ参加者より～

僕が障がい学生をサポートするのは、相手が障がいをもっているからではなく、その人を好きで助けたいと思うからだだったんだ、ということを経験を通して再確認することができました。いつもこの思いが根底にあって、またそれは今後も変わらないだろうと思いました。

障がい学生の話を書いて、『もし自分が障がいをもったら』と考えたけれど、考えても意味がなく、その人それぞれにたくさんのドラマがあり、苦労し、迷うのだから、自分ひとりの想像では遠くおよばないと思いました。今回のチャレキャンでは、みんなのドラマや悩みを聞くことができ本当に良かったです。



大塚国際美術館の体験コーナーにて



視覚障がい者も触って楽しめる絵画を体験



見えない・きこえない・身体の自由がきかない中での食事体験

## ●秋学期中間懇談会

日時・場所：2017年12月2日（土）京田辺校地 恵道館 106 教室  
 2017年12月16日（土）今出川校地 志高館 118 教室  
 参加者数：33名（京田辺）、20名（今出川）



## 学期中間・学期末懇談会

この懇談会は、障がい学生支援制度の利用学生（障がい学生）とサポートスタッフ（学生スタッフ）を中心に、支援活動における個々のケースについて意見交換を行い、制度の充実化を図ると同時に、障がい学生と支援スタッフ等の交流を深めることを目的としています。

春学期末懇談会は、8月7日（月）に開催予定でしたが、台風のため中止となりました。秋学期末懇談会は、今出川校地で開催しました。また、今年度秋学期より学期中間懇談会を各校地で開催し、「明日からの支援につなげよう」をテーマに、約2ヶ月間のサポートをそれぞれが振り返り、明日からできることは何かを話し合いました。

秋学期末懇談会では、「支援と私」をテーマとし、3月の卒業を間近にした車椅子ユーザーの利用学生に大学4年間で振り返ってお話してもらいました。印象的なエピソードをいくつかご紹介します。①2年生の夏に参加したChallenged キャンプで、スタッフと利用学生の垣根を越えて本音で話し合ったことにより、「お互いに人と人」であることを知った。②私生活の中での経験から人とのかかわりが広がった。③今までコンプレックスと思っていた自分の障がいに対して、周りの人が「障がいのあるぼくをみていた」というよりも「ぼくの人間性をみてくれていた」とことがわかった。④一人の人間としてみてくれることで障がいが気にならなくなり、そこから障がい学生支援室との関係性をみつめなおし、つきあっていけるようになった。

このような利用学生の生の声を聞く貴重な機会を得たうえで、各々の「支援と私」について考え、意見交換をしました。さらに、これまでの経験や他者の考えをシェアし、自分が何を大切にしたいかを漢字一文字で表しました。

## ●秋学期末懇談会・懇親会

日時・場所：2018年2月13日（火）今出川校地 志高館 地下ラウンジ  
 参加者数：84名（教職員含む）





## ●ガイドヘルプおよび車椅子介助の講習会

日時・場所：2017年9月22日（金）

今出川校地 寒梅館ハーディーホール、クローバーホール

参加者数：47名（教職員含む）



今出川校地 寒梅館ハーディーホールとクローバーホールにおいて、今年度も、ガイドヘルプおよび車椅子介助の講習会を開催しました。これは、コンサートや講演会などを開催するクラブ・サークルが寒梅館ハーディーホールを利用する際、来場者の中に障がいのある方や歩行困難な方がいる場合を想定し、気持ちよく催物を楽しんでいただくための講習です。ホールアートのスタッフやホールを使用する学生団体および学内関係者 47名が参加しました。

### 【参加者の声をご紹介します】

#### EVE 実行委員会：経済学部 1 年次生

私は目隠しをして校舎を歩くという体験は初めてで、最初は怖く思いました。しかし、ペアの方の補助があったおかげできちんと進んでいくことができました。目が不自由な方や見えにくい方にとって、人の助けがどれほど大切かを知ることができました。

また、車椅子の場合も同様で、前後左右の障害物との空間的距離が 1 人では把握出来なかったのですが、ペアの方の補助で、障害物に当たることなく進んでいくことができました。やはり、ここで人の助けはとても重要だと思いました。講習会での経験を活かし、困っている人のお手伝いを積極的に行っていこうと思います。この度はとても貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。



#### コール・フリーゲル：商学部 3 年次生

今回のハーディーホールの講習会で学んだことは、身体障がいの視点でした。

普段コンサートを主催していく上で、スロープがあるか、手すりがあるかを確認していたつもりでしたが、実際には、確認するだけの作業になっていました。

しかし、今回実際に自分がその立場に立つて行動したとき、普段の生活では感じ得ない“何とも言い難い恐怖”を感じました。慣れていないのももちろんでしたが、ハンディキャップをもつだけでこんなにも生活が変わるのかということをも身をもって体験しました。

例えば、目が見えないと進むことを躊躇してしまったり、車椅子というだけで、階段での登り降りができず、遠回りをしなければならなかったり、大変もどかしさを感じました。現在は、どのホールもバリアフリーになっていますが、まわりの人と同じになるためにはまだまだ足りないと感じたのが正直なところです。

今回の講習会で体験した価値観や視点を、今後のコンサートに取り入れていく必要性を感じました。みんなの理解があってこそコンサートであり、障がい者の生活を知ることでも誰もが楽しめるコンサートを作ることができます。

この度は貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

#### ホールアート (HA) / 文学部 4 年次生

一昨年にも講習に参加しましたが、他の（劇場での）アルバイトで実際に白杖を持たれている方や車椅子の方を誘導することがあり、教えてもらったことが大役に立ちました。

今回も改めて細かいところを確認することができ、良い機会となりました。ただ説明を聞くだけでなく、実際に自分が誘導する側とされる側の両方を体験できたことで、今後そのような対応をする時は、スムーズに動けるといいます。体験では、目の不自由な方や車椅子の方の困難な部分を知ると共に、適切な誘導があれば想像していたよりもずっと安心して移動できることが分かり、驚きました。

チームのメンバー同士で、気づいたことや注意すべきことを共有しながら進められたことも有意義だったと思います。この講習で得た知識や感覚を忘れずに、きちんと今後のお仕事や日常生活の中で活かしていきたいと思います。



## ●奨学金返還説明会

日時・場所：2017年11月13日（月）  
今出川校地  
協力スタッフ：2名（パソコン通訳）

## ●障がい学生へのキャリア形成プログラム『同志社大学生協インターンシップ』

日時・場所：2017年12月4日（月）、12月7日（木）、12月11日（月）、12月14日（木）  
今出川校地  
参加者数：1名

### 【利用学生の声をご紹介します】

利用学生： A.Y （法学部・3年次生）

4日間の同志社大学生協のインターンシップで貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。  
この度のインターンシップを通じて、私は就労における責任感を学び、業務が利用者の役に立っていることの喜びを得ることができました。講義では大学生協の歴史や運営について丁寧なご説明をいただき、一般企業との違いをよく理解することが出来ました。学内の購買では、大学生や教職員の方を対象とした品揃えを考えたり、お昼の混雑時の動線を考えてレジの並び方を工夫するなど、日々の観察・分析・判断の重要性が分かりました。どの商品をどうやって陳列するかで売上が左右されるため責任は大きいですが、利用者の喜ぶ顔が見えるので、やりがいのある仕事だと感じました。組合員センターでの実習では実際に新入生が使う生協カードの入力作業などをさせていただきました。地道な作業でも集中してこつこつと取り組むことの重要性を改めて感じました。私は、これから社会人となることへの自覚をもち、一つひとつの行動に責任が伴うことを意識していきたいと思います。そして、働くことの喜びや、やりがいを大切にして、仕事と向き合っていきたいです。

## ●同志社京田辺クリスマス燭火讃美礼拝 ●同志社クリスマスキャンドルライトサービス

日時・場所：2017年12月9日（土）  
京田辺校地  
2017年12月23日（土）  
今出川校地  
協力スタッフ：6名（手話通訳・通訳指導・教職員含む）



### 【参加してくれたサポートスタッフの声をご紹介します】

サポートスタッフ：佐藤 玲央（理工学部・2年次生）

私がクリスマス燭火讃美礼拝での手話通訳に挑戦したきっかけは、去年の礼拝で手話通訳をされた先輩から声を掛けてもらったことでした。

手話は全くの未経験だったので不安はありましたが、共に手話通訳を行うスタッフの皆さんや、利用学生の方々、支援室のコーディネーターさんと一緒に何度も話し合いをして、見やすく分かりやすい手話を行うために練習を重ねるうちに少しずつ不安を取り除くことができました。

普段全く気にしていなかった手話でしたが、この経験の中で表現に意味がつかまっていることを知り、その素晴らしさを体感できました。これからはもっと手話に親しんでいきたいという思いになりました。

障がいの有無に関係なく、少しでも多くの方がクリスマス燭火讃美礼拝に参加していただき、あの素晴らしい空間を共有していただけたらと思うと共に、私がその一助になれていたら幸いです。

来年も機会があればぜひ挑戦してみたいと思いました。

### ●「2017 キャリア体感プログラム」事前講座

日時・場所：2017年7月8日（土）  
今出川校地  
協力スタッフ：2名（パソコン通訳）

### ●「2017 キャリア体感プログラム」事前講座

日時・場所：2017年9月30日（土）  
今出川校地  
協力スタッフ：2名（パソコン通訳）

### ●第1回 就職ガイダンス

日時・場所：2017年10月6日（金）  
今出川校地  
協力スタッフ：1名（移動介助）

### ●電気系進路ガイダンス

日時・場所：2017年12月5日（火）  
京田辺校地  
協力スタッフ：2名（パソコン通訳）

### ●障がい学生対象 就職ガイダンス&相談会

日時・場所：2017年12月15日（金）  
今出川校地  
協力スタッフ：2名（パソコン通訳）



就職活動を行う障がいのある学生を対象に「働くということ」を自ら考え、行動するための就職ガイダンスです。障がいがあり社会で活躍されている先輩からのアドバイスや専門講師による法定雇用率や採用の現状、質疑応答などを中心に開催されました。

2018年4月から社会人となった先輩からは、自身の経験を活かしたメッセージが後輩の皆さんへ送られました。

#### 【身体障害者手帳取得に対する考え】

- ・手帳は自身の障がいを採用担当者に明確に伝える上で有効
- ・障がい者雇用において手帳を取得したことによってマイナスになることはない
- ・手帳を取得して就職活動を行うことは大切

#### 【企業選びのポイント】

- ・障がいに対する理解
- ・この会社で働きたい！と思えるかどうか
- ・ワークライフバランス

#### 【エントリーシートはこう書こう！】

- ・自分だけのオリジナルストーリーで書こう
- ・読む人の気持ちになって簡潔に書こう
- ・自身の経験から得たことをいかしてどう取り組んでいるのかを具体的に書こう

先輩の皆さんへ

就職活動は大きく成長できるチャンスです。準備をたくさんして全力を尽くしたとしても、落とされることなんてたくさんあります。そうした中で行き詰まったときはまわりを頼ることです。一人ではないことを忘れないでください。

### ●電気系進路ガイダンス

日時・場所：2018年3月1日（木）  
京田辺校地  
協力スタッフ：2名（パソコン通訳）

# 社会貢献事業

## ●第26回 障害者シンクロナイズドスイミングフェスティバル

日時・場所：2017年5月14日（日）  
京都市障害者スポーツセンター  
内容：フェスティバルのパソコン通訳  
協力スタッフ：3名

## ●上京区憲法月間 映画のつどい

日時・場所：2017年5月25日（木）  
同志社大学 寒梅館ハーディーホール  
内容：ユニバーサル上映「きみはいい子」と講演のパソコン通訳  
協力スタッフ：3名

### 【PC通訳をしてくれたサポートスタッフの 声をご紹介します】

サポートスタッフ：小林 奈央  
（商学部・4年次生）

私は、地域の方々が来場される場でのPC通訳をとおして、情報保障についての考えを深めたいと思い、映画のつどいのPC通訳に応募しました。

今回、児童虐待がテーマの講演を通訳させていただきました。単に音声を文字情報として伝えるだけでなく、虐待が発覚するまでの経緯や発覚してからの流れ、発生の割合等も学びました。

今回、初めて大きな会場でのPC通訳を行い、最初は上手くできるか不安もありましたが、スタッフ間で確認をしながら活動することができました。映画のつどいでは250名をこえる方々にご来場いただき、よりの確な情報をお伝えするためにもスタッフ間の連携はとても大切であると実感しました。今回の経験を今後のサポート活動にも活かし、さらに情報保障についての考えを深められるようにしたいと思います。貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。



## ●鳥取聾学校 来学

日時・場所：2017年6月1日（木）  
今出川校地  
訪問者：聾学校教員1名 中学部3年生1名  
協力スタッフ：2名（教職員含む）



鳥取県立鳥取聾学校の中学部3年生1名の生徒さんが、進路学習の一環として同志社大学を見学に来られました。今出川キャンパスのハリス理科学館で巨大アンモナイトの化石を紹介したり、聴覚障がい学生と直接懇談をする中で、将来の進路についてイメージを膨らませていただきました。また、実際授業で行われているパソコン通訳や遠隔情報保障支援を体験していただきました。



●コマ撮り撮影と積み木色塗り

日時・場所：2017年7月2日（日）  
今出川校地  
協力スタッフ：6名



同志社大学には多くの車椅子ユーザーの学生さんが在籍しています。皆さんと同じ休み時間のタイミングで教室移動をする際、なかなかエレベーターに乗れず、授業に間に合わないことがあるのをご存知でしょうか？  
そうしたある場面を積み木を使ってコマ撮り映像をつくりました。是非ご覧ください。

●複合領域科目「コミュニケーションのバリアフリー」を考えるー共に生きる社会をめざしてー

日時・場所：2017年8月28日（月）～9月1日（金）  
今出川校地  
協力スタッフ：28名（パソコン通訳、延べ）

同志社大学障がい学生支援室では、障がい学生支援室長を科目代表とする正課授業（複合領域科目）として、毎年8月末に夏期集中講義を開講しています。大学コンソーシアム京都へ科目提供していますので、本学学生のみならず、他大学の学生さんも受講できる科目となっています。  
本講義では、学内で共に学んでいる障がい学生を取り巻く状況・実情を踏まえつつ、障がい学生と支援する人々の双方が直面する「バリア」について、座学と障がい体験をおりませて考察しました。



●第1回 上京区ふくしをなんでもしごと講座

日時・場所：2017年9月5日（火）

同志社大学 寒梅館ハーディーホール

内容：ユニバーサル上映「徘徊～ママリン87歳の夏～」と講演のパソコン通訳、会場案内  
協力スタッフ：8名



同志社大学 今出川校地寒梅館地下1階 ハーディーホールにおいて、「2017年度 第1回・第2回 上京区ふくしをなんでもしごと講座」が開催されました。第2回目の障がい学生支援室挨拶では、障がい学生支援スタッフが手話で支援制度の紹介をしました。

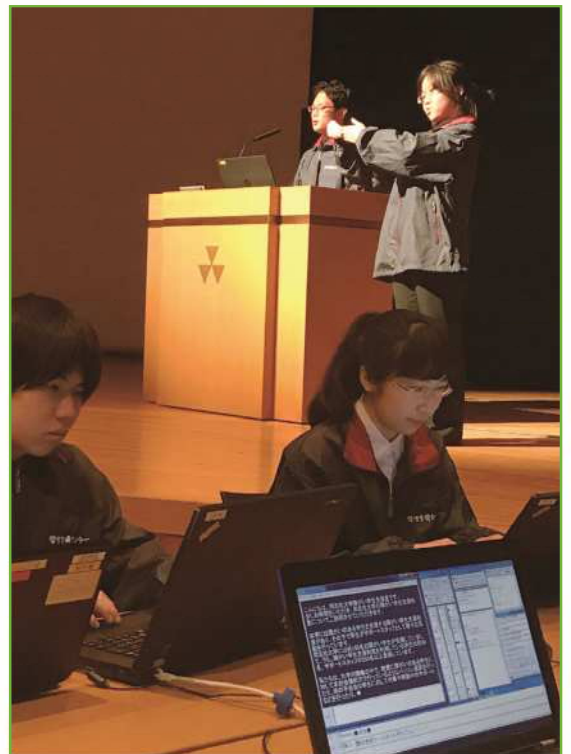
●第2回 上京区ふくしをなんでもしごと講座

日時・場所：2018年2月17日（土）

同志社大学 寒梅館ハーディーホール

内容：ユニバーサル上映「青い鳥」と講演のパソコン通訳、会場案内

協力スタッフ：8名



## ●京都市立盲学校 来学

日時・場所：2017年12月13日（水）

今出川校地

訪問者：盲学校教員3名 高等部2年生4名

協力スタッフ：3名（教職員含む）

京都市立盲学校の高等部2年生4名の生徒さんが、進路学習の一環として同志社大学を見学に来られました。見学会をとおして、大学で学ぶイメージをつかんでいただき、見えない学生が大学でどのような支援を受けて学んでいるか、懇談をしました。

生徒さんからは「大学は広くて、人が多く活気があった」「大学のサークルの話が面白く、高校の部活とは全く違い、もっと聞きたかった」と感想がありました。

## ●上京区人権月間バスツアー

日時・場所：2017年12月26日（火）

長島愛生園

内容：見学ツアーのパソコン通訳、手話通訳

参加人数：17名（教職員含む）

### 【参加してくれた学生の声をご紹介します】

2017年年末に上京区憲法月間「国立ハンセン病療養所バスツアー研修」へ参加しました。

園内は当時の建物がそのまま残されており、実際に使用されていた洗面台や湯のみ、フォークなども展示されていました。本学の制度を利用している障がい学生の参加もあり、園内のツアーでは、サポートスタッフがパソコン通訳、手話通訳を行いました。

「多くの誤解によって差別を受けてきた病気と患者」の真実を知り、各々が感じたものは何か、参加者の声をご紹介します。

**サポートスタッフ：小林 奈央**  
(商学部・4年次生)

研修バスツアーに参加して、間違った知識や認識が人の幸せを奪い、人生を変えてしまう怖さを感じました。ハンセン病は感染力が弱く治すことのできる病気であるにもかかわらず、遺伝病、感染力が強い不治の病などと間違った情報が広まったことで差別や偏見が生まれ、強制的に隔離されたということを学び、もし、自分が当事者になったらどうするだろう、と考えました。そして、今も家族や親しい人に迷惑がかかると本名を名乗れず、故郷にも帰ることができない方々がおられると知った時、このハンセン病に関する間違った認識や国の政策が人々に与える影響の大きさを感ずるとともに、正しい知識を持つことや正しい情報を発信していくことの重要性を実感しました。

もしかすると、自分の何気ない一言が人を傷つけ差別や偏見に繋がっているかもしれない。そう考えると、得た情報を鵜呑みにするのではなく、本当に正しいのかどうかを自分なりに考え、確認してから発信することが大切だと思いました。

また、現地の方々の思いや今回教えていただいたことを大切に、今後も人権について学び、考えを深めるとともに自分にできることを行動に移せるようにしたいと思います。



# 連携事業

## ● AHEAD JAPAN

日時・場所：2017年6月17日（土）、6月18日（日）  
今出川校地  
協力スタッフ：10名（会場案内）

## ● さがの映像祭

日時・場所：2018年1月20日（土）、1月21日（日）  
同志社大学 寒梅館ハーディーホール他  
内容：さがの映像祭作品上映  
協力スタッフ：1名（障がい学生支援コーディネーター）



## ● 大学コンソーシアム京都パソコン（PC）テイクー養成講座（初級編）in 同志社大学

日時・場所：2018年3月8日（木）  
同志社大学 良心館 307教室  
内容：聞こえや情報保証の心得についての講演とパソコン通訳の講師  
協力スタッフ：5名

大学コンソーシアム京都主催のPC通訳講座に、障がい学生支援室の学生スタッフが講師として活動しました。学生スタッフは、IPTalkという要約筆記ソフトを用いたPC通訳の方法を初心者の方々にも分かるように体験を織り交ぜて工夫した講座を行い、質疑応答時には現場経験で得たことや聴覚障がい学生とのコミュニケーションについても話してくれました。

実際に参加された方々からは、「サポートを実際に行っている学生の生の声が聞けてよかった」「障がいに関する説明や心得の部分についても触れただけなのに印象に残りました」「実際に自分が手を動かし、体験できたことがよかった。また、フィードバック等でプラスαの情報も教えてもらえたこともよかった」などのご意見もいただきました。



### 【大学生・教職員対象】障害のある学生の支援に関する支援者養成講座 パソコン(PC)テイクー養成講座(初級編)in 同志社大学



（公財）大学コンソーシアム京都では、同志社大学学生支援センター障がい学生支援室のご協力を得て、「PCテイク」を知ってもらうことを目的とした初級者向けの「パソコン(PC)テイクー養成講座(初級編)in同志社大学」を開催します。

近年、障害のある学生が多く在籍しており、大学では様々な支援が行われています。その中で、聴覚に障害のある学生に対しては、講義での情報をノートやPCを使って伝える「ノートテイク」や「PCテイク」が支援の主流となっています。特に「PCテイク」は上級者になると手書きよりも多くの文字情報を伝えられるのが特徴です。

今回は、同志社大学障がい学生支援室のご協力のもと、実際にPCテイクーとして支援に携わっている学生スタッフの皆さんに、同志社大学で実際に自校の学生向けに行われている初級者対象の養成講座をアレンジしていただいた講座を実施していただきます。PCテイクに興味がある又は現在PCテイクに取組んでいる学生の方、他大学の取組みに興味がある教職員の皆さんもぜひご参加ください。

- 日 時：2018年3月8日（木）15：00～17：00（受付開始14：30～）
- 場 所：同志社大学今出川校地今出川キャンパス良心館（R1）307教室  
地図： <https://www.doshisha.ac.jp/information/campus/access/madezawa.html>
- 対 象：PCテイクに興味がある又は現在PCテイクに取組んでいる学生・教職員、他大学の取組みに興味がある教職員（大学で障害学生支援を担当する教職員の参加も可）
- 講座内容：詳細が決定次第、(公財)大学コンソーシアム京都HPにて情報を公開いたします。
- 講 師：同志社大学学生支援センター障がい学生支援室学生スタッフの皆さん
- 受 講 料：無料（定員40名程度・申込先着順）
- 申込方法：裏面をご参照ください。

【主催】公益財団法人 大学コンソーシアム京都  
【協力】同志社大学学生支援センター 障がい学生支援室  
【問い合わせ先】公益財団法人 大学コンソーシアム京都  
学生交流事業部（担当：教育、進路等）  
受付時間：火～土曜日 9：00～17：00  
〒600-8216 京都市下京区西陣通堀小橋下るキャンパスプラザ京都内  
TEL：075-953-9189 FAX：075-953-9101 mail：sh-@univnet.or.jp



# 同志社大学障がい学生支援室について

## ● 2017年度 障がい学制支援制度 スタッフ登録・活動状況

適当たりの派遣コマ数 (2017年春) (単位: コマ)

活動内容	今出川		京田辺		合計
通訳	PC+PC (UDトーク含む)	12	PC+PC	31	43
	PC+PC+NT (遠隔含む)	9	PC+PC+NT (遠隔含む)	6	15
	NT	0	NT	1	1
代筆・ポイントテイク	21(内ヘルパー対応6)		21		42
車椅子等介助(講義補助/食事/トイレ/ストレッチ他) 休憩時間の支援含む	46 (内ヘルパー対応23)		22		68
合計	88		81		169

※ PC 通訳・NT は、障がい学生 1 名に対して、学生サポートスタッフ 2 名で支援  
 ※ 代筆は、障がい学生 1 名に対して、学生サポートスタッフ 1 名で支援  
 ※ トイレ・身体・食事介助については、ヘルパー対応も有  
 ※ 字幕付け・文字起こし等の突発的な支援、正課外の行事支援、勉強会等講師派遣は除く

スタッフ登録状況 (単位: 人)

2017年度	スタッフ	学生	一般	合計
春学期 (7月現在)	登録者数	252	26	278
	活動者数(4月~7月)	134	5	139
秋学期 (2月現在)	登録者数	230	26	256
	活動者数(10月~1月)	126	2	128

適当たりの派遣コマ数 (2017年秋) (単位: コマ)

活動内容	今出川		京田辺		合計
通訳	PC+PC	17	PC+PC	30	47
	PC+NT	2	PC+NT	2	4
			PC+PC+NT (遠隔含む)	2	2
			NT	1	1
	UDトーク	1			1
		UDトーク +PC+PC		2	2
代筆・ポイントテイク	14		16		30
車椅子等介助(移動介助/講義補助/食事/トイレ/ストレッチ他) 休憩時間の支援含む	7(内ヘルパー対応5)		2		9
視覚障がい介助(ガイドヘルプ/対面朗読/講義補助)	28		1		29
合計	71		54		125

## 同志社大学障がい学生支援室の年間スケジュール

- |  |   |
|--|---|
| <p><b>4月</b> 春学期始め・入学式<br/>オリエンテーション<br/>障がい学生支援制度説明会及び入門講座<br/>春学期登録会および利用学生・サポートスタッフ顔合わせ会<br/>ランチタイム手話<br/>新入生歓迎会(京田辺校地)<br/>教職員研修会<br/>フォローアップ勉強会</p> | <p><b>10月</b> 第12回日本聴覚障害学生高等教育支援<br/>(PEP Net-Japan) シンポジウム<br/>ランチタイム手話<br/>フォローアップ勉強会</p> |
| <p><b>5月</b> 新入生歓迎会(今出川校地)<br/>第26回障害者シンクロナイズドスイミングフェスティバル<br/>上京区憲法月間 映画のつどい<br/>ランチタイム手話<br/>フォローアップ勉強会<br/>春学期中間懇談会(両校地)</p>                          | <p><b>11月</b> インテーク面談(キャリアセンター)<br/>新年度予算案作成<br/>ランチタイム手話<br/>フォローアップ勉強会</p>                |
| <p><b>6月</b> ランチタイム手話<br/>フォローアップ勉強会</p>   | <p><b>12月</b> 秋学期中間懇談会(両校地)<br/>クリスマス燭火讃美礼拝<br/>ランチタイム手話<br/>フォローアップ勉強会</p>                 |
| <p><b>7月</b> ランチタイム手話<br/>フォローアップ勉強会<br/>オープンキャンパス</p>   | <p><b>1月</b> ランチタイム手話</p>   |
| <p><b>8月</b> オープンキャンパス<br/>寒梅館夏まつり<br/>複合領域科目「支援する/される関係の中でバリアを考える」</p>  | <p><b>2月</b> 秋学期末懇談会・懇親会<br/>第2回上京区ふくしをなんでもしっとご講座<br/>新年度スケジュール作成<br/>各種パンフレット・ガイド作成</p>    |
| <p><b>9月</b> Challenged キャンプ(2泊3日)<br/>秋学期前面談<br/>秋学期登録会および利用学生・サポートスタッフ顔合わせ会<br/>第1回上京区ふくしをなんでもしっとご講座<br/>ガイドヘルプおよび車椅子介助の講習会<br/>秋学期始め</p>              | <p><b>3月</b> 卒業式<br/>新規制度利用者の面談<br/>新年度スタッフ強化勉強会<br/>新学期準備集中講座<br/>春学期前面談</p>               |

# 同志社大学障がい学生支援室について

## 1. 本学における障がい学生支援について

同志社大学の障がい者支援は1949年に遡る。入学試験において、日本の大学で初めて点字受験の対応を開始した。1975年、点訳・墨訳担当者を配置し、試験問題の点訳を開始。1982年には学長の諮問機関として「障害者問題委員会」を設置し、これを契機に今出川校地内建物入口スロープや自動昇降機を設置、1984年からは語学テキストの点訳業務を開始した。

1986年、京田辺校地の開校にあたり、キャンパスの基本設計から全面的なバリアフリー化をはかり、図書館内には点字室や対面朗読室を設けた。

2000年3月、「障害者問題委員会」からの学長宛て答申を契機として同年5月「障がい学生支援制度」がスタートし、翌2001年に同委員会からの再答申により、講義補助から講義保障へと一段と踏み込んだサポートが開始された。この際、一部の支援で、サポートスタッフの活動を有償化した。

2002年には「障害者問題委員会」を「ノーマライゼーション委員会」と名称変更し、学内の障がい学生の総合的相談窓口を、学生部（現在の学生支援センター障がい学生支援室）に一本化、2004年、今出川・京田辺の両キャンパスに常勤の障がい学生支援コーディネーターを配置し、日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet - Japan）の連携協力を開始した。

2006年には日本学生支援機構（JASSO）の「障がい学生就学支援ネットワーク事業」の拠点校として連携協力を開始し、2007年にはアシスタントスタッフ（有償）とボランティアスタッフ（無償）を統一し、「サポートスタッフ」として全支援を有償化した。

2008年、「ノーマライゼーション委員会」を発展解消し、「学生主任連絡会議」に整備・再編し、学生支援センター内に「障がい学生支援室」を設置した。

2009年秋より、事務組織上、障がい学生支援室を京田辺校地学

生支援課に一元化した。

## 2. 障がい学生支援に関する指針（ガイドライン）制定について

2012年度の障がい学生支援室の取組みとして、一つは2013年度から大学の事務組織として「障がい学生支援室」を実態化したことと、本学における障がい学生支援の基本姿勢を明確にするため「障がい学生支援に関する指針（ガイドライン）」を制定したことがあげられる。

同指針（ガイドライン）では、基本原則の中で学長のリーダーシップによる効果的な支援の取組みや「合理的配慮」に基づく成績評価、大学と障がいのある学生本人との十分な合意形成、共通理解による支援内容の決定などを明記した。

今後の本学におけるさまざまな障がいのある学生に対する支援にあたって、全学的な基準となる指針（ガイドライン）制定となった。

## 3. 障がい学生支援室（2018年3月31日現在）

専属の障がい学生支援コーディネーターが常駐しており、障がいのある学生に対して学生サポートスタッフの協力を得て、授業保障に関わるサポートを行う。（授業保障とは、障がいのある学生が希望するすべての授業について、一般学生と同じレベルで受講できるよう保障することである。）

### 1) スタッフ

マネージメント（教員1名、職員2名）  
コーディネーター（4名 内1名は手話通訳者）  
事務補佐員（5名）

### 障がい学生支援に関する指針（ガイドライン）

本指針（ガイドライン）は、同志社大学における障がいのあるすべての学生に関わる修学支援について定めるものとする。

#### 1. 基本原則

- 同志社大学は、本学に在籍する障がいのある学生が健常の学生と等しい条件のもとで、学生生活が送れるよう授業保障、情報保障を中心に修学支援を行うものとする。
- 学長は、本指針（ガイドライン）に定める目的を達成し、効果的な支援を遂行するため必要な規程の整備、予算措置を講ずるよう努めるものとする。
- 修学支援は、本学におけるこれまでの先進的な取組みをもとに行うものとする。  
なお、支援内容の判断が困難な場合には、障害者基本法および障害者差別解消法に定める「合理的配慮」並びに文部科学省の「障害のある学生の修学支援に関する検討会」報告（第二次まとめ）が定める基準、取扱いを参考とする。  
※「合理的配慮」等については、別紙、【参考】資料参照。
- 障がいのある学生に対する修学支援は、原則として本人（及び保護者）からの支援要請に基づき行うものとする。ただし、本人からの申出ができない場合においても、当該学生が社会的障壁の除去を必要としていることが明白である場合には、大学から当該学生に対して働きかけるものとする。
- 成績評価については、「ダブル・スタンダード」は設けない。その他、具体的な修学支援内容は、原則として受験時、入学時、学年変更時の面談の際、大学（学部、障がい学生支援室等）と本人（及び保護者）が、十分な合意形成・共通理解を図ったうえで決定し、大学から提供するものとする。ただし、支援内容の決定時期については、本人の障がいの程度、合意形成・共通理解が得られた時期等を勘案し、柔軟に対応するものとする。

#### 2. 修学支援内容について

- 前掲の基本原則のもとに、障がいのある学生の一人ひとりの修学支援の要望に基づき、大学の関係部署が緊密に連携、協力して個別対応を行う。
- 個別対応の具体的な事例は、別途、定める。
- この指針（ガイドライン）に関する事務は、学生支援センター障がい学生支援室が行う。
- この指針（ガイドライン）の改廃は、学生主任会議の審議を経て、学長が決定する。

#### 付 則

この指針（ガイドライン）は、2018年1月1日から施行する。

### 【参 考】

- 国連・障害者の権利に関する条約について  
・「障害者の権利に関する条約（以下、「障害者権利条約」という。）は、2006年12月に国連総会で採択され、2008年5月に発効した。日本は、2007年9月に同条約に署名しており、2011年8月に障害者基本法の改正を行い、2013年度に障害者差別解消法が制定され、2016年度に施行された。  
・「障害者権利条約」では、第24条（教育）において、教育についての障がい者の権利を認め、この権利を差別なしに、かつ、機会の均等を基礎として実現するため、障がい者を内包する教育システム等を確保することとし、その権利を確保するもののひとつとして、「個人に必要とされる合理的配慮が提供されること」とする。
- 高等教育における「合理的配慮」について  
・高等教育における「合理的配慮」（reasonable accommodationの訳語）の定義については、2017年3月に出た文部科学省の「障害のある学生の修学支援に関する検討会」報告（第二次まとめ）（以下、「報告（第二次まとめ）」という。）で定めたものに準拠するものとする。  
・「障害者差別解消法」第8条第1項では、「事業者は、その事業を行うに当たり、障害を理由として障害者でない者と不当な差別的取扱いをすることにより、障害者の権利利益を侵害してはならない」、第2項では、「事業者は、その事業を行うに当たり、障害者から現に社会的障壁の除去を必要としている旨の意思の表明があった場合において、その実施に伴う負担が過重でないときは、障害者の権利利益を侵害することとならないよう、当該障害者の性別、年齢及び障害の状態に応じて、社会的障壁の除去の実施について必要かつ合理的な配慮をするように努めなければならない」としている。
- 障がいのある学生の定義とその範囲について  
・障害者基本法第2条（障害者差別解消法第2条も同様）では、障がい者とは「身体障害、知的障害、精神障害（発達障害を含む）、その他の心身の機能の障害（以下、「障害」という。）がある者であって、障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にあるもの」と定める。また、社会的障壁とは、「障害がある者にとって日常生活又は社会生活を営む上で障壁となるような社会における事物、制度、慣行、観念その他一切のもの」と定義している。したがって、「障がいのある学生」の範囲は、「障がい及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にある学生」とする。（報告（第二次まとめ））
- 学生の範囲、学生の活動の範囲等その他の事項について  
・学生の範囲（正規学生、科目等履修生、聴講生、留学生など）、活動の範囲（授業、課外活動、学校行事等）、合理的配慮の考え方（機会の確保、情報公開、決定過程、教育方法等、支援体制、施設・設備）については、報告（第二次まとめ）の定めに準拠するものとする。  
・上記に記載したものを以外で、その他必要となる事項については、当面の間、報告（第二次まとめ）の定めに準拠するものとする。以上

## 障がい学生支援に関わる流れ

1937年	ヘレンケラー女史、本学で講演
1949年	大学入学試験において点字受験対応を開始（日本の大学では初）
1975年	教務課（今出川校地）に非常勤の点訳・墨訳担当者を配置 試験問題の点訳を開始、1984年度より語学テキストの点訳業務開始
1982年	大学長の諮問機関として「障害者問題委員会」設置（1982年4月）を契機に、以後順次今出川校地内の建物入口スロープや自動昇降機等を設置
1986年4月	京田辺校地設計にあたりバリアフリー化を企図、図書館内に点字室と対面朗読室を開設
1991年	視覚障がい者用ワープロ購入と同時に図書館（今出川校地）内に点字室を設置
1992年4月	教務課（今出川校地）に常勤の点訳・墨訳担当者を配置
2000年5月	障害者問題委員会からの学長宛答申（2000年3月）を契機として「障がい学生支援制度」がスタート（予算管理は教務課） ・障がい学生の把握と相談窓口 ・正課授業保障の体系化（教科書点訳は基本的に大学が責任をもつ） ・障がい学生の人的支援制度 ア）「障がい学生支援連絡会」を設置 イ）学生課（京田辺校地）によるボランティア（ノートテイク・PC通訳）学生派遣 ウ）奨励金制度の導入・懇談会の開催
2001年10月	障害者問題委員会からの学長宛答申（2001年8月）を契機として「講義補助」から「講義保障」へ制度の幅広いおし ・講義保障には、ボランティアスタッフ（主に視覚障がい学生及び肢体不自由学生への学生生活支援（無償））に加え、アシスタントスタッフ（聴覚障がい学生への講義通訳（有償））制度を導入
2002年	予算管理を学生課（京田辺校地）に移す 「障害者問題委員会」を「ノーマライゼーション委員会」と名称変更
2002年1月	学生課（京田辺校地）に常勤の手話通訳担当者を配置
2003年	「障害」の「害」について、人を意味するときのみ「障がい」とする旨を決定、採用 大学院生に対しては可能な範囲で補助をする「講義補助」という立場を明確化
2004年4月	両校地に常勤の障がい学生支援コーディネーターを配置 肢体不自由者（電動車イス専用）用トイレ設置
2004年5月	学生部再編により学生支援センターへ名称変更
2004年10月	日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）への連携協力開始
2005年3月	両校地の全ての教室棟扉・トイレに点字シールと対応墨字シール貼付
2005年5月	JR 福知山線脱線事故学生に関して「障がい学生特別支援体制」で対応
2005年9月	学際科目「学びのバリアフリーを考える－障がい学生支援－（聴覚障害への講義保障を通して）」の運営協力を開始
2006年10月	日本学生支援機構（JASSO）の「障害学生修学支援ネットワーク事業」に拠点校として連携協力開始
2007年4月	アシスタントスタッフ（有償）とボランティアスタッフ（無償）を統一し、「サポートスタッフ」として全支援有償化
2007年10月	障がい学生キャリア支援セミナーをキャリアセンターと協力・開催
2008年4月	「ノーマライゼーション委員会」を発展解消し、「学生主任連絡会議」に整備・再編 障がい学生支援窓口を「障がい学生支援室」と呼称
2008年10月	第4回 PEPNet-Japan シンポジウム「聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2008」にて Challenged キャンプ（2005年より年1回開催）の発表で PEPNet-Japan 賞を受賞
2009年4月	学生支援機構を設置し、4つのセンター（学生支援・保健・カウンセリング・キャリア）が連携し、組織的かつ総合的な学生支援体制を構築
2009年11月	「障がい学生支援室」を学生支援センター・京田辺校地学生支援課に一元化
2010年11月	第6回 PEPNet-Japan シンポジウム「聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2010」にて心のバリアフリーをめざしてと Challenged キャンプの発表で準 PEPNet-Japan 賞を受賞
2011年5月	PEPNet-Japan 連携協力校として東日本大震災により被災した大学への遠隔情報保障支援を開始
2011年9月	障害学生修学支援ブロック別地域連携シンポジウムを日本学生支援機構と共催
2011年10月	PEPNet-Japan 「障害学生支援大学長連絡会議」に開催校として協力
2012年12月	第8回 PEPNet-Japan シンポジウム「聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2012」にて「同志社の実り～そだてる・つながる・ひろがる～」の発表で2度目の PEPNet-Japan 賞を受賞
2013年2月	同志社大学障がい学生支援に関する指針制定
2013年4月	学生支援センター・障がい学生支援室を大学事務分掌規程に明記
2013年12月	PEPNet-Japan が「平成25年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰」において「内閣総理大臣表彰」を受賞
2014年4月	コーディネーター1名増員（4名体制） 今出川・京田辺両校地フリーアクセスマップ製作
2014年12月	「人」を意味するときに加え「人の状態」を表す場合も「障がい」と表記を統一することを決定
2015年2月	同志社大学障がい学生支援に関する指針改正
2015年6月	PEPNet-Japan 遠隔情報保障事業モデル校採択
2015年11月	生活協同組合におけるインターンシッププログラムを実施
2016年6月	PEPNet-Japan 特別プロジェクトとして熊本地震により被災した大学への遠隔情報保障支援を開始
2017年1月	同志社大学障がい学生支援調整委員会に関する申合せ制定
2017年11月	同志社大学障がい学生支援に関する指針改正

## 京田辺校地



## 今出川校地



### 入学式の手話通訳とパソコン通訳について

聴覚に障がいのある学生・ご家族のため、**入学式では手話通訳とPC通訳**を実施しています。また、視覚に障がいのある学生・ご家族のためには、希望があれば**点字の式次第**を準備いたしますので、3月上旬までに障がい学生支援室までご連絡ください。



～障がい学生支援制度に関する申込み・問い合わせ先～

### 学生支援センター 障がい学生支援室

公式HP (<http://challenged.doshisha.ac.jp/>) Office of Student Disability Services

障がい学生支援室では専属のコーディネーターが常駐しており、障がいのある学生の学生生活支援を行っています。お気軽にお越しください。

#### ■京田辺校地 成心館 1階

〒610-0394 京田辺市多々羅都谷 1-3  
Tel 0774-65-7411 / Fax 0774-65-7024  
E-mail : jt-care@mail.doshisha.ac.jp

#### ■今出川校地 室町キャンパス 寒梅館 1階

〒602-0023 京都市上京区烏丸通上立売西入御所八幡町103  
Tel 075-251-3273 / Fax 075-251-3099  
E-mail : ji-care@mail.doshisha.ac.jp

#### ■今出川校地 今出川キャンパス 待辰館 1階

Tel 075-251-3261 / Fax 075-251-3299

■開室時間 平日：9:00～17:00 (11:30～12:30 閉室)

\* 休職中は開室時間が異なりますのでHP・掲示板でご確認ください。